

NoteBook

No.

英文法問題集

17.8.13
17.8.13

東京高等師範学校附属中学校

上原 *Uehara*

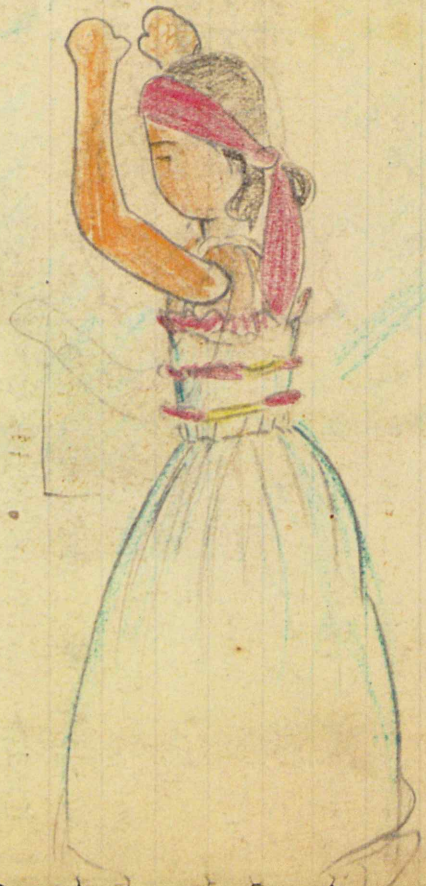
S. M. & CO.

六月十九日（火）晴

今日は午前中は授業を二号教室でした。地理の時帝都のある關東平野を帳面に書いた。算数の時音楽室で五女だけで今度の發表會にする事を阿久澤先生に話していただいた。私は始めの御挨拶を阿久澤先生に言ふやうになつてしまつた。生懸命におぼえようと思つた。お晝食のあと急いで寮に歸り頭洗をした。どんどんしなると時間に間にあはない。福光のことぶき座で私たちにいろいろな事を見せてくれた。私たちが途中まで行くくと岩丸先生の後に皆が列を作つて歩いてゐたので一番後にくつて行つた。赤いまくがつかつてゐた。始まるまでの時間の長い事長い事。いよいよ始つた。長いラッパやアコーデオンの長い事長い事。演奏が勇しく聞えた。赤いきれいな支那服を着た女の方の歌をどり、私はうつとりと見とれてしまつた。きれいな聲の歌。後のまくなはさうさうと光つた物がちりはめてあつた。本當にきれいで目がくらみさうだ。終りの方に舞ふやうがあつた。よく手足体がやうかく使へるなあと感心してしまつた。あの方は毎日おすを飲んでいらつたのかしら。みどり鰐の物ですつかり体をつみ頭にはへびのかんむりをがぶつていらつた。本當に沼の中のへびを思はせるおどりに。最後に水島さなえさんの美しい歌で終つた。小矢部川のふちを通つて前田寮に歸つた。それからお風呂にはいつた。きれいに体を洗ふとさうはりして氣

持がよい。阿久沢先生といしよに表を作った。そして表
を出来あがらせた。夜のお話は吼える密林が今
月から始まった。

多々の演劇 どうぞーとい
戦とあんならうね。



六月二十日(水)晴

今日も山菜取り、立野ヶ原のそばの道にそれて小川
のほとりにこしをかければ足もとにうんとたくさ
ある。根もいしよにぬけてしまふので小川で洗ふ。
空はいつものやうに青くすみ所々に白い雲がういてあ
る。喜門先生が部隊長だ。部隊長を中にいん
どん進んだ。黄色になつた夢島がずっと續いてある
もう早い所では夢島の中で夢刈りが始まつてある
大人の方が一生懸命に下を向いて刈つていらつとやる。

夢刈サ

お宮の所ではぐれてしまつた。が皆のすげが目をあ
てにさがしたらすぐわかつた。黒い牛が時々「もうー
と鳴く。そのたびにサイレンではなにかとおどろかさ
る。少し木が生えて日かげになつてあるところでおべん
たうをいただいた。そこに三ッ葉がにくさるあつた。木が
方々にたはされておたのでその上にこしをかけてお
いしく河井さんといはだいた。ただく前にそばの
川へ行つてきれいに手を洗つた。お食後におりんご
をいただいた。皮ごと口の中に入れるとあまくてど
もおいしい。そこでもせりとふさこと三ッ葉とをわけた。
出發して元氣よく歩いた。そして小矢部川の所
から軍歌を歌つた。歸るとも六年生が歸つ
て来てゐた。お教室のござの上にせりなどの山が
出来てゐる。前田寮に歸つておひるねをした。
お父様のしよく業など岩丸先生に聞かれた。夜
阿久沢先生がいらつしやつて發表會のおけいこを
見て下つた。床につく時岩丸先生が物の有難さ
のお話をして下つた。私は本當にその通りだと思つ
た。感しやしなから何でもしななければ



六月二十一日(木)晴

今日は午前中ずっと発表のおけいこをしてゐた。途中モサイレンがおそろしく鳴りだした。カクで次々に鳴りだす。すぐかけ足で前田寮に歸つた。そして防空服をつけ又急ぎ足で學校に行つた。又今日の夜ぐらひに蔽言報になりやうだ。と思つた。今晩は防空服をいつもものやうにこちんとそろへてをかう。午後寮に歸つて繪を書いた。畫用紙を四枚張り合せた。はかした。その間に坂口さんや山崎さんといふような繪を書くかそうだった。大体形は私が書いた。そして色は皆で仲良くぬつた。頭はすみにした。夜又きれいにぬりなほしてから日記を書いた。前田さんのお家の方といふよにはたるとりに行きたい人は行つた。私は日記がにまつてゐたので行きたくてたまらないういへてあるす番してゐた。岩丸先生といふよにふざけつていたり、にらめっこをしたりして楽しかった。でも歸つていつしやつた皆さんのお話を聞いてがまんした。

今な 行きませう



六月二十二日(金)晴

青少年學徒ニ賜リサル勅語記念日

今日は青少年學徒に賜りたる勅語の記念日。朝會後社前で勅語奉讀式が行はれた。私達が奉讀する聲がおそろかに聞えた。それから女學校の雨天体操場で發表會のおけいこをした。これがもう舞たいでやつてゐるのだと思つて一生懸命にした。午前中は二号室で自習してゐた。午後寮へ歸る途中近藤先生と小川さんのお母様と驛の方から歩いてゐた。皆聲をそろへておがへりなう。と言つた。だいま。と先生のあんなお聲。何だかとてもうれしかった。寮に歸つてお流した。七枚洗つたが夕方迄には全部かはしてゐたのでうれしかった。洗濯を終つて荷物のせいとんをした。日記を書いてから地理の宿だいをした。お姉様がこんな事をしてゐたのが私は小さい時うやましくてまねをして笑れたのだ。夜四年生が發表會のおけいこをしてゐるのを見た。とてもお上手だ。終つた時皆で手をたたいた。岩丸先生が少しおがせごみだ。私はとても心配だ。ごむりをなやうないやうに。おななね。

おけいこ



今日は發表會園内練成會である。朝會の少し前
警戒警報が發令されたが朝會体操をしてゐる時か
いぢよになつた。女學校の講堂でした。私は班長なので
進行がかりであつた。いつもの時より發表が多かつた。おもし
ろいしりとり歌があつた。二三男女の可愛う、少彦名神の對
話がとてもおももしろい。だんだん進むにつれて私たちの番が
近づき、いよいよ私たちの番になつた。聲がふるへて矢ばい
てしまつた。あやつてまでにつかへないやうにおけいこをして
をかう。そしてつと勇氣をだしてふるへる事などないや
うにしよう。終つてからこれには講堂をはいた。新しい
ほうきが私たちのつかつたところをきれいにしてくれる。
午後もう一度だけおけいこをして前田寮に歸つた。寮
で表の点をすみてくろくした。さうしないと講堂の後ま
で見えないのだ。夕食後久しぶりに學園情報があつた。
沖なは本島の事、敵機のにくうしい空襲の事、その後のドイ
ヅ。この三つのお話があつた。沖なはではもうぞんねんな
様子が續いてゐるのださうだ。どうぞ兵隊さんがん張つて
下さいとお祈りするばかり、私はくやくしてくやくしてたま
らない。近ごろにくうしい敵機は東京名古屋横濱など
の都市ばかりでなく小さい町でもがまはつにもうはくをす
るのださうだ。そして私たちのゐるこの福光の町の上空を敵
機が通る。私はよく防空服をそろへていつどこで警報になつ
ても

てもすぐどこのへるやうにしてをかうと思ふ。ドイツのお話を
聞いて何とも言へない氣持がした。この大東亞戰爭に
必ず必ず勝貫かなければ。私たちの山菜刈りも勝つため
なのだ。



情報局發表

六月二十四日(日)曇、小雨
今日は朝四年以上の班長集合になつて次第を
一生懸命に書いた。それからずっと午前中日記
を書いてゐた。お晝食の少し前一回練習をした。

A colorful drawing of two children standing in the rain. The child on the left wears a yellow raincoat and holds a blue umbrella. The child on the right wears a red dress and patterned shorts, holding a red umbrella. A faint sketch of a third child is visible in the background.

大之
よく出来たと
比喩の先生が
ゆきやきおどす

校歌みがかすはで終った。晝食後先生が「今日は皆よくがんばりました。とても上手でした。本當によかった」とほめて下さった。私はとてもうれしかった。午後お晝寝をした。朝雨が降つてゐたのに、あらりと晴れて氣持がよかつた。夜今日着たせい服をしまつた。今度は又いつこの嬉しい夏服を着られるかしら。

敬語の使ひ方

六月二十六日(火)晴

今日はあらりと晴れた上、天氣、眞青にすみよつた空には入道雲がもくもくと出てゐた。山菜刈りだったのが急にまき運びに変わった。西太美の石うちまでだ。おべんたうを持つて行くのだつた。途中では麥刈りの姿が所々に見えた。私達の歩く右手に左手にきれいな水の川が流れてゐた。午前中は、工場のうらから道の方へ運ぶのだ。ほとんど運んだ。汗はたらたらとほほをつたはつて流れる背中、下着が



ぐつついて氣持がわるい。がそんな事をかまはないで、どんどん走つて運んだ。二十何回運んでおべんたうをした。だいた川できれいに手を洗つた。つめたくて、いまでも手を入れてゐた。道のかけの下で田んぼを眺めながら、おいしくおいしくいただいた。おもしろいお話をしながら、何だか男の子が沖にはが玉砕したなどと言つてゐた。そんな事何だか信じられない。うな氣がする。あんなにが張つて下さつた沖にはが兵隊さん。何だか、頭にさがり胸が、つぱいになる氣持であつた。まきをかついで學校へ歸つた。中川さんという、お話をしながら歩いてゐた。もう一本松の、ところまで来てゐた。もう、いちやう。あつけないわね。と二人で言つてしまつた。寮に歸るとお風呂がわいてゐた。有賀先生と高島さんがわかつてをいて下さつたのだ。とてもうれしかった。そして汗だらうけになつた体をきれいに洗ふと、さっぱりして体がかかる。なつたやうに思つた。夜はたるとりに行つた。初めてのほたる狩り。私の心はうれしく、うれしくておどつてゐた。小矢部川の所まで行く。と、びかりびかりと光つた。はたるが水の上をうれしうに飛びまはつてゐた。途中で木林先生にお會ひした。前田寮にいらつてやる。ところだつたのだ。吉波寮の前の田んぼの所では、はたるの光が何十何百と、ぐやぐやと、きれいなほど、おどろきまはつてゐた。何匹も何匹も、手をつかまへた。ほたる狩りに、む中になり寮に歸つたのは、九時すぎ。おた、電氣を消して、かう。

晝間の新けこびは、疲れまゝ。入浴、螢が、わ。

ほとろをとお部屋の中になした。このされいなほとろの光を見ながら静かにくゝ眠った。

六月二十七日(永)晴

今日は午前にも一回午後一回まきを運ぶのだ。今日は二三年も行く。きのふのやうによく晴れたお天気。列を正して元

威下
oy
あ
の
す
ね。

昨日は
ふりとも
疲れた
ふね

氣よく歩いた。お百しようさんが田植のすんだ田を苗が
 行儀よく並んでゐる間々くわで一生懸命にたがやして
 うちつやう。太陽はがんかん照つてゐる。西太美に着い
 た。そこで五十分の休憩があつた。まきのおかれてゐるよ
 この可愛い小川で遊んだ。手を洗つたりハンケチを洗つ
 たりしてゐたがたまになくなり高田先生にうづかつて
 足をつけてしまつた。つめにくそでもよい氣持である。
 やがも集合の号令。先生にまきをいたなくとどんどん學
 校の方へ歩いて行つた。もうおさだ「白い物が二本道の兩側
 に立つてゐる所まで来たのだ。そんな氣持が私の心をなつ
 けてくれる。河井さん二人でお話をしながら来た。どて
 も近かつたやうに思はれた。お晝御飯がどてもどてもお
 いしくいただけだ。午後もそのやうにして運んだ。それから
 家に歸つて体をきれいにふいた。水がひやりとしてても氣持
 がよかつた。夜はつがれてゐるのでお話もなすきくつすり
 と眠つてしまつた。

今日は朝からよいお天気であつた。それで大掃除だ。朝食に行く前にうすべりをはがして行つた。ものすごいごみだ。朝食をして又歸つて來た。そして岩丸先生がつくつて下さつた組でたみを一枚づつ運んだ。さうたう重い物だ。階段をおりる時はとても氣を使つたが、生懸命に中根さん土埴さんと力を合せて運んだ。三枚運んだら、なくなつてしまつた。今度入れる時にかん張つたにこそ運ばうと思つた。さうして赤いお水とみどりのお水を先生がつばいづつ下さつた。働いた後で又のどがかわいてゐたので本當におしかつた。何とも言へないよい香り、何だか夏のお家と思ひ出した。それから學校に行つて地理をした。今日の地理はいつもよりずっとくおもしろくやつた。午後干したたみを取りこんだ。岩丸先生が棒でばんばんはんぶん。とたたく音が勇しく私の耳にひびいた。ほこりがえんまくのやうにもうもうと立ちあがる。それから小矢部川に行つた。うれしくうれしくたまらない。洗面器を持つて行つた。そして下げきと下着二枚を洗つた。早く遊びたくなつてしまひ、學校の下着はもうらんざつになつてしまつた。ひざ小ぞうの上まで水の中にはいつてしまつた。とてもとてもおもしろかつた。めだかが石と石との間をすばしこく泳いでゐる。草の上に洗たく物を干してゐたが、かなかつた。歸つてから又お夕食に行つた。久しぶりで

疎開學園情報があつた。沖なはが玉碎したと言ふ事をお聞きした。ああやつぱりさうだつたのだ。あんなにがんばつて下さつた兵隊さん。このかたきはきつときつと私達がつたのだ。たとへ本土へ米鬼が足をかけたにしてみうんとたたきのめしてやるのだ。きつときつと勝つのだ。その時の用意にしたあのおけいこをもつとれんしゆうし敵をたはせるわが日本國民になるのだ!! 夜初めにかやをつた

日本中勝を信じて 断りて仇を討



六月二十九日(金)晴

今日は又西太美にまき運びに行くのだ。岩丸先生が今日は福光校の五年以上総動員で手傳ってくれます。皆、負けないやうにがんばれ。とおっしゃった。いつもの道をどんとん歩いた。道のそばにあった大きな葉の草の上にたつむりが歩いてゐた。久しぶりで自分のお家を背負ったかたつむりに顔を合せた。私達の歩く前にもう福光校の方かなはを持て歩いていらした。大木のころがつてみかさなつてゐるところで休憩した。まきの方がどんとん持ていらつやる。みるみる山とつんであつたまきがだん少なくなつて行く。私達の持つて行くのがなくなつてしまふのではないかしらなどど心配した時もあった。私達と同じ位の方でも私達の何倍持つていらつやつた事だらう。私はおどろいてしまつた。こんななまで私達疎開して来た美に親切にして下さるのだ。この御恩はどんな事をしても報なければならぬと思つた。それと共に、もう強い子供になつてこの方達といつしよに何でもできるやうにだんだんおけいこしたいと思ふ。歸りの道は道がまこと人でいっぱいになるくらひであつた。前の方を見るとまるでありの行列のやうだつた。午後は体をふいておひるおををした。ぐすり眠つてあかさをなほした。夜、葉書をいただいた。姉かうのだ。由紀子姉様も疎開してしまつたのだ。お家はもうちりちりばうばうになつてしまつた。がそれも勝つたあななのだ。お父様お母

今日の感想は まきもあつた。うすれを同じでした。

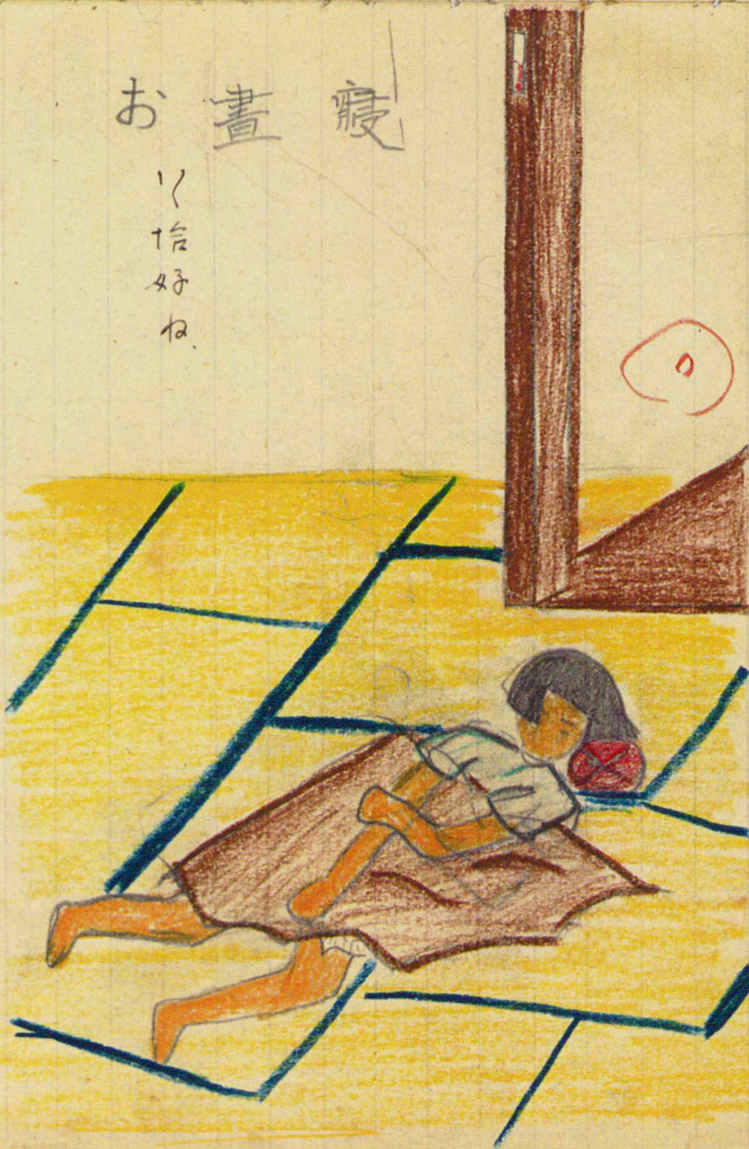
様のお氣持はどんなだらう。この大東亞戦争にはどんな事でもがまんしてきつときつと勝ち抜くのだ。

お 晝 寝

く 治 好 ね

六月三十日(土)晴

今日で六月も終り、私の班長も今日で終りだ。今日の終をしまつかり結び又新しい七月にはいろう。一時間目にさこの福光校の方が取つて来て下さつたふきのせいをした。まきを運んで下さつたばかりがこんなふきまで下さる。本當に有難いと思つた。葉を取つてはうすい皮をむく。とてもよいにはひがする。高島さんの事を先生にお聞き



病氣は 羊子に
用心 如大事

七月一日(月) 曇、々雨
朝、柳野さんと河井さんが氣持がわるいとおつしやつて學校へはおいでにならず寮で寝ていらつしやうた。二人のお席があいてゐるのでさびしい。早くおなほりになるといひ。算數の自習時間並木先生とざるを持つてお魚の配給を取りに行つた。久しぶりでお使ひに行くやうでうれしかつた。おながをこはしてしまつた。少しごはんをへらしていただいて早くなほと先生方にごめいわくをおかけしないやうにしよう。午後寮に歸つたらすみれのお部屋で二人寝ていらつしやうた。何とかなぐさめてあげようと思ひ今日して来た事をくわしく話した。それからお裁縫があつた。今日は下ばきのまに上のごころをおくろ縫ひした。これを私のはくのかと思ふ。とんどん仕事はかどる。どうとうおひるねまで。まだまだだけ縫ひあげた。とてもうれしかつた。おひるねをする時岩田さんといつよに眠つた。起きた時とでもねむかつた。



七月二日 候

班長は終りましうたが 六月の気持とちやうどに 皆の
たり 學校のためにつくして下さい。

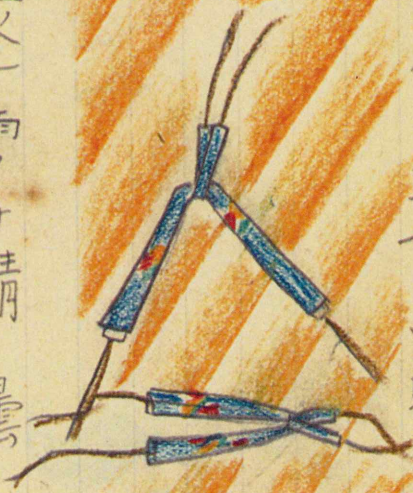
よくのりておます。

七月二日 (月) 雨

今日は休養日だ。まだ何事せんはおふとんの中。さびしう
うだ。朝食後すぐ寮へ歸った。それからはずと自由時
間。私はこのふの日記を書いて有賀先生にお出した。
先生が前鼻緒の作り方を教へて下さった。もう鼻緒
は出来上つてしまつたのだ。これを私の手たにすげようか。
姉にあけようかどうしようか考へた。それから地理の宿
だいをした。關東平野の地図を書き、それに水田や絹
をり物業のさかんな所を書き入れた。晝食に行前
先生が日記を返して下さった。見るというひひようが
書いてあつた。ますますよい日記にしようと思つた。午後地
理をしあけてからトランプをして遊んだ。久しぶりにやつた
のでとてもおもしろかつた。前田さんのお家の方がおい
しいお三時を持て来て下さった。いつも何かかにか作つ
て下さるお家の方。本當に有難い事だ。もつたいない
事だ。それから明日の用意をしておひるねをした。少
しか眠らないうちに出發用意になつてしまつた。
夜國語のおべんきやうをした。武士のおもかげのところ
を讀んだ。床についてからのお話は先生のお聲を子守

歌にして途中からぐつすり眠つた。

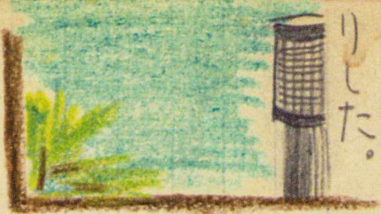
上った
鼻緒



七月三日 (火) 雨、夕晴 曇

今日は地理の時間帝都のある關東平野の中の東
京とその附近をした。そしてお帳面に東京灣を書き
工場の所や港の事をあたらひした。私達の住んでお
た東京がなつかしく思ひ出された。あの東京もすお分
變つただらうなあ。圖上をたんとくも様をこしらへた。
いろいろ考へてやつと思ひつた。どの時べるが鳴つてしま
つたのでつまらなかつた。午後お風呂の中であたまを
頭つた。何たかお家でやつてゐるやうに思つてうれし
かつた。有賀先生に体をきれいに洗つていただいた。そし
てそのあかへしに私が先生のお背中をささやつかつ
とこすつた。かまかせにやつてつれてしまつた。皆の体が
よれてゐるのでお湯にあかやあぶらがういてゐる。そ
れををけですくふ。体中のあかやごみがすつかりと
れたのでさっぱりした。おまけに頭も洗つたので何だ

が体がかかるようになったやうに思った。夕食後のお當番
が変った。私達は二号教室だ。私達のおべんきようす
るところだ。一生懸命にできるだけきれいにした。皆
心を合せて——今日は久しぶりに青空を見た。雨
あがりの木々のみどりとは真青
な空。見て心もすつき
りした。



七月四日 (水)

さういふ青空だね。

今日は朝會を久しぶりに外でした。もんぺもぬぎ。今ま
でお部屋の中におて動かさなかつた体を思ひふり動か
した。それからずいともんぺをぬいでみた。算敷を久しふ
りでやった。阿久沢先生がいばうくしなかつたから頭がさ
びついてしまったね。さあ今日から頭に油をさしてやろう。
とおつしやつた。今日はわり算をした。ふでの持ち方を度々先生
に注意された。つとめて正しく持つやうにしよう。

二玉山門老木だ。今まではいつもかい書を書いてみたが五
年生になるときよ書と言ふ字を書くのだ。かい書の時
は力を入れて書いてみたが今度はあまり力を入れないで
やはらかく書くのだ。一生懸命にした。午後急にざー
と夏の雨が窓のガラスをうった。すごい勢ひであつた。
又があつた。と日が照つた時もあった。わけのわからぬ
お天気だ。雨が降つてゐたので午後はずっと學校にゐた。
日記を書いたり地理の宿だいをしたりして夕食の時間
のくるのを待つてゐた。三年生がきこせがへを作つて遊ん
でゐた。本當に可愛い。夜ゆつくりと朝にだいたした西塚
先生からのお手紙を見た。おたん生日のカードもはい
つてゐた。朝顔の色紙もはいつてゐた。うれしくてうれし
くてたまらない。夜のお話は日本名作さんのどししゃん
と言ふお話だつた。とてもおもしろかつたが途中から眠
つてしまった。



七月五日（木）雨、晴

今日は図書館でお勉強した。時間目の算数の時阿久沢先生がわら半紙を持っていってやつたので、考査かと思ひびくびくしてゐたら福光音頭を作れの事。考査より困ってしまつた。國語はわからないうけを先生にお聞きした。國史は佛教についてのお話を、お聞きした。だんだん時間がたつて地理は少ししか出来なかつた。午後は待ちに待つたお裁縫。下はさのま下を縫つた。何度も何度もやりなほした。やうやう出来上つた時は夕食も近かつた。今日は少し早いお夕食であつた。お赤飯とろろこんぶ、おきやべつ、おもちにおつゆなどたくさんで、さうが、どうしてこんなに出るのかわからなかつたが、興助先生のお話でやうやうわけがのしみこめた。石田先生がお嫁さんを、おもらひになつたさうだ。本當にお目下だと思つた。それで先生方もお酒をお飲みになつた。本當においしくたのしくよくかんでの、お祝ひのごちさうをいただいた。有賀先生のお聲が少しおかげさみのやうだつた。どうぞお大切だ。



七月六日（金）雨

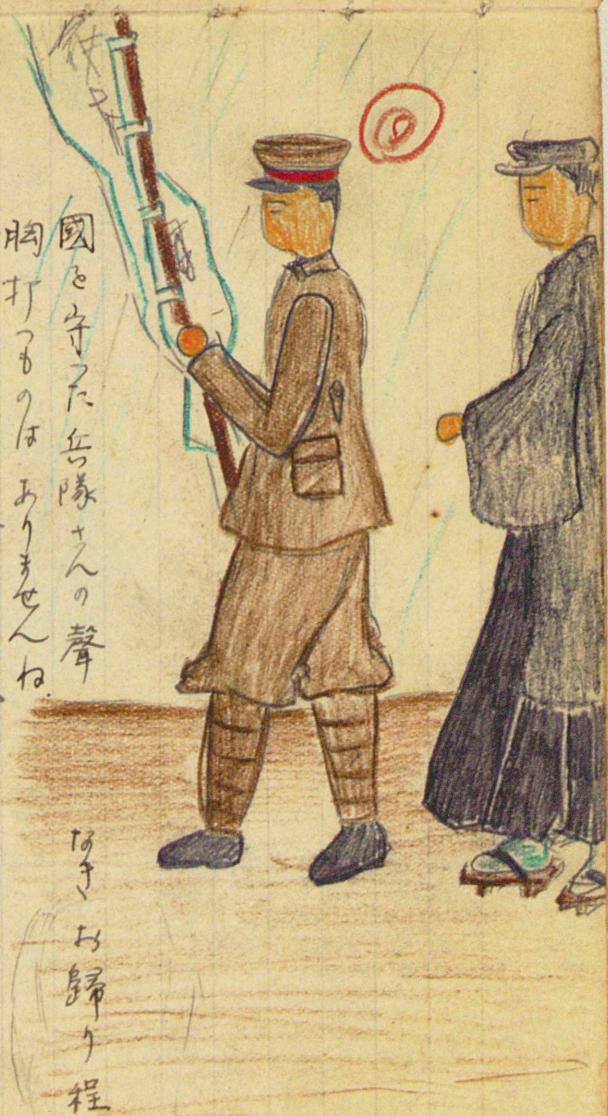
今日は朝河井さんと前野さんが二人床を並べて休んでいらつてやつた。私達五年生は二号教室でお勉強するのだ。主事先生がいってやつると何となくうれし。二時間目の圖工は自習だつたが、たんとくもやうをこしらへてゐた。お晝食の時それをお部先生から返していただいた。さうしたら、優と書いてあつた。とてもうれしかつた。午後は床屋さんに行くので寮に歸つた。かさ屋さんから私のかさが直つて歸つて来た。少しぶりで私のかさを直してうれし。寮に歸り、荷物の整理をした。それから日記を書いた。今週のはがきを書いておると四年生の三人が床屋さんから歸つて来た。どうして五年生はじきないだらう。夜、有賀先生が手紙を下つた。由紀子姉様のいそべからの初手紙。ゆ里子ちゃんと御いっしょ。私の大すきな平井さんの手紙は、由紀子姉様はいないな。ゆ里子ちゃんのやうな妹がほしい。光子姉がうそ来た。そんな事を考へておはけないと自分の心をいまして。近藤先生が河井さんたちをお見舞いといつてやつて歌を歌つて下さつた。とても今日は眠かつた。



今日は支那事變記念日。東京のお家なら七夕祭りをする日だ。私の日直。しっかりした日直で一日を過さうと思ふ。一時間目音楽で忠靈塔のところを歌った。二時間目から福光校學徒隊のお式のよかう演習があつた。少し雨が降つてゐたけれどもまはすはだいで並んだ。短かい雨だったのでも寒くしてとりはだがで来る。そんな事何事もなかつた。閱兵、分列のおけいこをした。下がぬかつてゐるの。びちやびちやとはねかへる。終つてお教室にはいつた時は体がよくよく寒かつたので防空服を着てゐた。四時間目の理科は算數に變つた。午後女學校までつてゐてお裁縫をした。もう細通しをすれば出来上り、うれしくてほとんどん仕事がはかどる。右足の上の細通しを作つてやめにした。もうかた方をすれば出来上つてしまふのだ。少しお夕食を早めにいただきえいれいのおお迎へに出た。雨がきりのやうにふつてゐるかぬないかわからないくらゐに降つてゐる。岩丸先生の号令。汽車が着いたやうす。やがてしすすと私達の前を英靈がお通りになつた。私は頭をたれて「兵隊さん本當に有難うございました。」と言ふ氣持で胸がっはいであつた。私も兵隊さん方に負けないやう苦しい事もがまんします。と、ちがつた。それから學校にかへり、荷物を持って寮に歸つた。明日は少し早く起床。すぐ床をのべてぐつりと眠つた。

七月八日(日)小雨 大詔奉戴日
今日は大詔奉戴日。起床が少し早く、急いでお掃除
をして、學校に行つた。まだ早かつた。何もする事がない
机につぶしてゐたら、知らず知らずのうちにすつかり
眠つてしまつた。たれかの笑ひ聲に目をさまして見ると
何だかお教室が變つてゐるやうに思つた。福光校の
講堂で學徒隊結成式が行れた。町長さんをはじめ、
四五人のお客様がいらつてやつた。隊長さんのお話の次に
町長さんのお話最後に天皇陛下萬歲を三唱した。
それに續いて、赤松校の石川先生が御入隊なさるのむ、
その壯行式があつた。頭ものばしていうつてやつたのをきれい
に川つておしまひになつてさりりとしていうつてやる。どうぞ
お元氣で働いて下さい。私達も皆さんと仲良くしてかん
張ります。と口では言はなかつたが、心で言つた。

何の爲の學徒隊か、もう一度考へて。



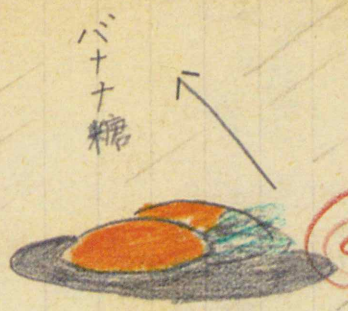
七月九日（月）雨、晴
今日は地理の時利根川を中心として調べた。日光の方
を見た時、よく繪はがさや本で見るとごんのたさと思
ひ出した。大久保さんの忠ちやんもここにゐる。喜
ろはなにをしてゐるだらう。などと思つた。國語は義門
先生が教へて下さつた。障子張りのところだ。かういふ心
がけは私達大切だと思つた。圖・エと算數は自習だつた
それで算數の時山本寮からお野菜を運び、そのあと
をお掃除した。午後、西さうがあつた。英靈送り。岩倉
さんが校旗を持つてゐた。黒いわをうむにはめた軍人
さんが大勢歩いていらつしやつた。拜禮をしてゐる時は
何とも言へない感じがした。樂隊がおそろかにひびいた。
それから、前田寮にまきこを運んだ。そしてお夕食まで寮
におた。有賀先生が今朝かうお休みになつていらつしや
つたのにお起きになつた。御無里にならないかしら、
夕方、治療に行つた。お掃除の途中から行くのは何だか
いやだつた。皆さんにわるい。早く治してしまはう。私は先
にしていた。いたので河井さんと二人でゆつくり靜かに歸
つた。中川さんも御病氣。私は本當に休に氣つけよう。
ほへた。うん。



七月十日 天晴

今日は久しぶりの上天気。青くすまかった空にはまぶしい太陽がにこにこ笑っている。前田寮でお餅つきがあったので自習がたふさんあった。宮地先生や阿久沢先生のおさしづでお勉強してゐた。國史は聖徳太子の事についておしらべ申し上げた。午後はお晝寝をしに寮舎に歸った。そしてぐっすり眠った。お夕食の時に今日のお餅を二つづついただいた。今度はさなこのついたお餅二つ。先生方のお力のこもったお餅。とてもおいしい。この間のはがんぱり餅。今度のは何といふお名前がかしら。お天気がよい日は心がはれはれとして氣持がよい。でも何だかだらりとしてしまふ。こんな暑さに負けてはならない。お夕食後明日のお風呂のまよきを運んだ。今日は夜窓を開いて寝ても暑くないくらいであった。

おいしいお餅



ともみりゆたにすね



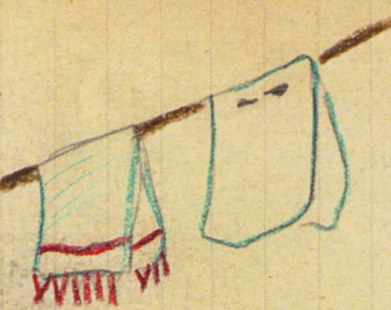
七月十一日 検

大変暑い。元氣をいけつて下さい。

七月十一日 (水) 晴、夕雨

今日は午前中よいお天気であったが午後は雨が降りむし暑かった。五年生は圖書館でお勉強。一時間目は算数で新しい計算の仕方をあならひした。始め知らないでへんな事をしてしまった。國語は武士のおもかげの中の馬ぞろへに進み、かいたくをしながう半分のところまでした。國史はともあもしろかった。地理は神戸までに入り、東海道を通ったやぢさん喜太さんと思ひ出した。お晝食の時久しぶりで園内情報があつた。残念にも沖なはが敵手にわたつてから、敵米英はどんなふうか。今、敵機動部隊がわが日本本土の近海をうろついてゐるさうだ。注意しなければならぬ。午後はお風呂をうろついて一・三班は外で洗った。すつかり体のなかみをおとし、又下着やもんぺをいつものやうにかへたのでも一つはりした。そして体がかるくなつたやうに思へた。夜とても眠かつた。茂木先生が三太夫のお話をして下さった。夕方治療に行つて歸る時雨がどしゃぶりになつて來たので、せつかく今日かへたもんぺがよごれさうだ。急いでひざり上までもんぺを上げて歸った。

ゴシゴシ



七月十二日(木)雨

今日は二号教室でお勉強である。算数の時しけんがあつた。あまりゆつくりしすぎて終りまでできなかった。今度からしつかりやらうと思つた。かへしていいにいいなあ。人を見ると思ひもようぬ。ハナ。こんな悪いお点をいただいては。この次からはもつともよいお点をいたぐやうにしよう。理科の時洗たくの干し方。どんな所がよいのかのお話をお聞きした。日向で風通しのよい温度の高い所などであつた。この次はそれでお本當にいかうかを調べるさうだ。午後は前田寮に歸り、おひねをした。始め少し河井さんとおしゃべりをしてしまったがそれからあとは何も知らないでぐっすり眠つた。先生が起して



下つた時はねむくしく、にまらなかつた。が、一班的掃除だつたので、すぐとび起きた。このごろうちとも手紙がこない。どうしたのだらう。まさか病氣ではないだらうが。明日國語のしけんがあるといふので一生懸命勉強した。



わむさうね

七月十三日(金)晴

今日は國語の時武士のおもかけのところの考査があつた。解釋と書取りだつた。まだまだよくでない。間違つてしまつた。もつと勉強しようと思つて、おるのだけれどだめだ。今度からはちよつとのひまも熱心に勉強



眠
か
つ
た。

うれいな

七月十四日(土)晴



おのゝたう。
うゝゝゝゝ。

水筒をかたからうさけおべん當を持つて校庭に集つた。
空は青空よい天氣

空は青空よい天氣

皆
无
氣
で
歩
き
ま
せ
う

そんな歌がひとりぐに口に出て来る。小矢部川の橋のところでまで来た。何だか川が前と違つてゐるやうに思へた。ほゞぶきがみどり色の實をぶら下げてゐるのが見ゆつてうれした。久しぶりに行くので道が違つてゐるのぢやないかしらなどと思つた。あのみどりの立野ヶ原に着いた。そこからうは各寮でさまざまなところへ行くのだ。そしてすこしは動きをしてよいのだ。私達は、日かけの場所をさがし、そこで休んだ。私は日記を少し書いた。小さな可愛たこのそばにこしをあらして――。有賀先生のいうつしやるところは小さな竹やぶ。太い竹がすくくとのびてゐる。今年生えた竹の子も、もう、三メートルぐらゐになつてゐる。しばらくしてかう、おべん當をいたぐく。久しぶりにおべん當箱のごはんを口に入れる。又いつもと違ふおいしさであつた。お晝ごはんの後、その小さな竹やぶで遊んだ。みどり色の竹がびかびか光つてゐる。それがう、又、さつこの場所が集り、元氣よく寮に歸つた。

私は洗たく物がたくさんになつてゐたので洗たくをした。初め、もんぺを洗ひ、それから敷布を洗つた。あまりきたないのがおちないのぢやなくにはなつてしまつた。泣きかたくなつてしまつた。でも、昔はうくのたねだと、私の心をはげ

福免の此頃は雨が多いので出来る時に洗濯した。ひたひた。ともしりりと
 ました。そして岩田さんといつしよに一生懸命に洗った。
 そしてたうたう出發用意になるまでつけた。洗
 物が少しでもへったと思ふとバがかるなつた。今日は治療
 がなかつたので足がとても痛かつた。



實際以上の
 おりけやおね
 竹もか頭ん

七月十五日(日)雨が降つたりやんた。り。うた。うた。うた。
 朝食の時突然與助先生が石田先生に突然召集令狀
 が來ました。とおつしやつた。私ははつとした。石田先生も二度
 目の兵隊さん。せつかくお嫁さんをおもらうひになつて間も
 ないのに。朝會後山下寮に待つて体重測定をした。
 ずおぶんへつてしまつた。でも重くつてゐるのだから心配
 ではなかつた。すぐ前田寮に歸り、昨日書けなかつたの
 で日記があとひかちうたまつてゐる。それを一生懸命
 に書いた。午前中で書きあげようと思つたう、やはり
 できなかった。何でも一生懸命にすればよいのだ。と思つた。

月七日検閲。石田先生に。そして前田先生に。おたうの身
 近からお屏によるお証せうな方か。あつてまた。とは。何と意味するの
 であらうか。あなた。お説通り。うた。うた。うた。足もとをみしりて下さい。
 終り一頁までよく記入を。あつたね。いれし。思ひます。

へ行つてゐるやうな氣がした。圖立と算数は自習だったので
 地理をしたり、日記を書いたりしてゐた。お晝食のころかう
 今まで昨日の嵐はうそのやうに晴れてゐたのに。だん。く。く。
 うくなり。息りのやうな雨さへ降つて來た。先生方の會議
 があるの。私達はお教室で自習してゐた。日記も書き
 しまつたのでトランプをして遊んだ。あつこれはいけな。こん
 なに遊ぶひまがあるのなら。勉強だ。く。く。く。そして國語をし
 たり。算数をした。今度からは。と。百点をいた。く。の。だ。
 たり。前田先生がいうしやつた。前田先生も召集令を手に
 なせり。立山の。おげんき。う。空。かうをりて。いうしやつたの
 だ。とおき。した。さい。とう。與助先生のお話があつた。勝利
 の日まで。何でもがまんする事。葉書にお家の方が御心配
 はさるやうな事は書かない事。先生のおつしやる事は。と。と。
 く。守り。とは。す。事は。ど。であつた。これ。う。の。事。に。さ。む。か。ず。さ。
 と。く。守。ら。う。守。る。の。だ。バ。タ。食。後。學。園。情。報。が。あ
 。



體重測定



乙
 止むのせうか、

七月十六日(月)

朝起床の聲に目がさめた。もう窓はすっかり開かれて明
かるい光がさしこんでゐた。今日はとてもよいあ天氣です。
と有賀先生があつた。あつた。ふれいなど私は思った。
一時間目地理で静岡の方を主にしうべた。伊豆は温泉が
多い。三島や小田原は宿場として發達した事。他いろいろ
お勉強した。國語は、かんこ鳥に進んだ。本當に私も山